
シンポジウム

「建築・住宅の設計におけるリスクコミュニケーションの活用 —構造性能の説明と合意形成を行う設計者のために—」

構造設計では、さまざまな目標性能を設定することになる。それらについて、建築主と合意をもって意思決定しておくことは、建設後の紛争防止や、性能決定の責任を明確にしておく点で重要になる。たとえば、大地震後にその建物が被害を受けた場合、設計者の責任を問われることになるのか。それは、設計時にどのような説明がなされたか、建築主がどのように理解したかにかかっている。またリスクを知りうる立場の設計者が、それを開示しない責任も問われる時代になった。

本シンポジウムでは、今、これから将来に向けて、構造設計内容を適切に説明し、建築主に納得してもらうことのできる設計者になるためのリスクコミュニケーション手法をとりあげる。

荷重運営委員会直属のリスクコミュニケーションに基づく設計手法WGでは、リスクコミュニケーションとして対話する内容、意思決定の手法、合意形成のプロセスなどについて検討し、設計者のためのリスクコミュニケーション支援ツールを開発した。シンポジウムではこれを解説し、実用に向けて討議する。また、性能設定の現状とその説明方針を、ゼネコン・設計事務所の例で紹介する。今回は特に、性能評価機関に対して実施した、実在建築物の設計保有水平耐力の実態把握調査結果も合わせて報告し、どのような建築物がどのくらいの耐力を有しているか、標準像を把握するための参考データもあわせて提供する。

<主催> 日本建築学会 構造委員会 荷重運営委員会

<後援> 日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、建築業協会、
日本建築構造技術者協会、日本鋼構造協会、日本コンクリート工学協会、日本損害保険協会、
日本鉄鋼連盟

日 時：2010年11月12日（金）13:00～17:00

会 場：建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

<プログラム>

司会：石川 孝重（日本女子大学）

1. 主旨説明 石川 孝重（前掲）
2. リスクコミュニケーションに関するユーザーニーズと求められる設計者像 平田 京子（日本女子大学）
3. マンションディベロッパー・エンドユーザーの構造性能に関する情報ニーズ 片桐 靖夫（三菱地所設計）
4. 何をどのように対話すべきか——論点の整理 金箱 温春（金箱構造設計事務所）
5. 耐震性能の構造説明事例1 太田 博章（竹中工務店）
6. 耐震性能の構造説明事例2 戸澤 正美（清水建設）
7. 設計目標性能の実態——性能評価機関に対する設計耐力調査
休憩（15分） 菊池正彦（大林組）
8. 地震リスクとコスト 坂本成弘（大成建設技術センター）
9. 耐震性能決定のための対話手法の提案 小林 利和（日建設計）
10. パネルディスカッション
11. まとめ 石川孝重（前掲）

定 員：120名（申込先着順）

参加費：会員3,000円 登録メンバー3,500円 後援団体3,500円 会員外4,000円 学生1,500円
（資料代含む・当日お支払いください）

申込方法：E-mailまたはFaxにて、催物名称、氏名、勤務先・所属、同電話番号、E-mailアドレスを明記してお申し込みください。定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡します。

申 込 先：日本建築学会事務局研究事業グループ 榎本
E-mail: enomoto@aij.or.jp Fax: 03-3456-2058
